

背景と論点

近年、学生がプレゼンテーションを行う機会が増えています。これまでは、プレゼンテーションの機会は設けられても、その指導は十分に行われていなかったのではないのでしょうか。学生がより良いプレゼンテーションが行えるようにするには、事前の指導が必要です。

プレゼンテーションの場は学内での教育活動時に限りません。就職活動や地域での社会活動など、学外での機会も増えています。そうした場面でより良い成果をあげるためにも、プレゼンテーションの能力は重要です。卒業後の進路や社会生活にも深くかかわるものだからです。

個々に蓄積してきた様々な経験知を言語化することを通して、学生がより良いプレゼンテーションを行えるよう、支援してみてもはどうでしょうか。

実践の手法

1. なぜ学生はプレゼンテーションがうまくできないのか

適切な構成がわかっていない

- 要点を絞り切れていない
- 何から話せばいいのかわかっていない

場の趣旨を理解していない

- 聴衆がどんな人々かわかっていない
- 自分に求められている役割を理解できていない

事前に練習をしていない

- 適切な時間配分ができていない
- 資料を棒読みしてしまう
- 聴衆に視線が向かない

2. プレゼンテーションの構成を理解させる

- ・ 導入・展開・結論の3部構成を意識させる
- ・ 導入・展開・結論それぞれの部分で伝えるメッセージを検討させる
- ・ 全体のストーリーを構想させる
- ・ 主張を明確にさせる
- ・ いくつかの主張の間に優先順位をつけさせる
- ・ 適切な資料の量を検討させる
- ・ 資料に載せる情報量を考えさせる

3. 資料の集め方や使い方を指導する

- ・ プレゼンテーションの目的を再確認させる
- ・ OPAC や CiNii の活用方法を確認させる
- ・ 中央図書館で資料を探すよう促す
- ・ 学部図書館で資料を探すよう促す
- ・ 目的に応じた調査方法を理解させる
- ・ 集めたデータの示し方を検討させる

4. 場の趣旨を理解させる

- ・ その場の目的は何か
- ・ 発表者に求められている役割は何か
- ・ 学生個人にとっての目的は何か
- ・ 自分以外の発表者はどのような人々か
- ・ その場はこれまでも設けられてきたものか
- ・ 聴衆はどのような人々か
- ・ 聴衆はどのような背景知識を持った人々か

5. 事前に練習させる

- ・ 時間配分を検討させる
- ・ プレゼンテーションの流れを確認させる
- ・ 口頭表現と資料との使い分けを考えさせる
- ・ 資料の用い方を確認させる
- ・ 会場や聴衆に応じた声の大きさやトーンを意識させる
- ・ 自分の話し方の特徴を理解させる
- ・ 良い印象を与える表情を意識させる
- ・ 聴衆の表情から理解度を読み取るよう意識させる
- ・ 画像を録画しておく
- ・ 音声を録音しておく

6. 聴衆の立場から学ばせる

- ・ 場の趣旨に合った内容だったか
- ・ 時間配分は適切だったか
- ・ プレゼンテーションの構成はわかりやすかったか
- ・ 主張は明確に伝わったか
- ・ 資料はわかりやすかったか
- ・ 資料はルールに則ってつくられていたか
- ・ 声は聞き取りやすかったか
- ・ 表情は適切だったか
- ・ 見習いたいのはどのような点か

7. フィードバックをする

- ・ プレゼンテーションの構成について批評する
- ・ 話の流れについて批評する
- ・ 資料の用い方についてコメントする
- ・ 声の大きさやスピードについてコメントする
- ・ 表情や身振り手振りについてコメントする
- ・ 学生同士で批評させ合う
- ・ 録画した画像をもとに内省を促す
- ・ 録音した音声をもとに内省を促す